

# どココレ? のつくり方

— おしえてください昭和のセンダイ —



## 「どココレ?」とは

昔撮影され、その場所が特定できないために資料として活用しにくい写真を、地元の人ならではの経験と知恵によって確定していく展示イベントが「どココレ?」です。NPO法人20世紀アーカイブ仙台とせんだいメディアテークの協働事業として、2013年に第1回を開催して以来、世代交流を通して資料が特定されていくユニークな手法から、全国で催されるようになりました。「どココレ?」は、どこでも、だれでも実施することができる地域の記憶発掘装置です。しかも、つくりかたはとてもシンプル。さあ、あなたのまちでも実施してみませんか。

NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
せんだいメディアテーク

# 「どこコレ？」のつくり方フロー

①

## 写真を集める

まずは、展示するための写真を集めましょう。20枚以上の写真が手元があれば、「どこコレ？」の準備開始です。



②

## 話しを聞く・書く

来場者に写真を見てもらい、知っていることや思い出したことを、自由に付せん紙に書いてもらいましょう。



③

## 場所を確定する

情報や証言などから、撮影された場所が特定されて地図が書ける（示せる）状態になると「確定」です。



④

## 資料を活用する

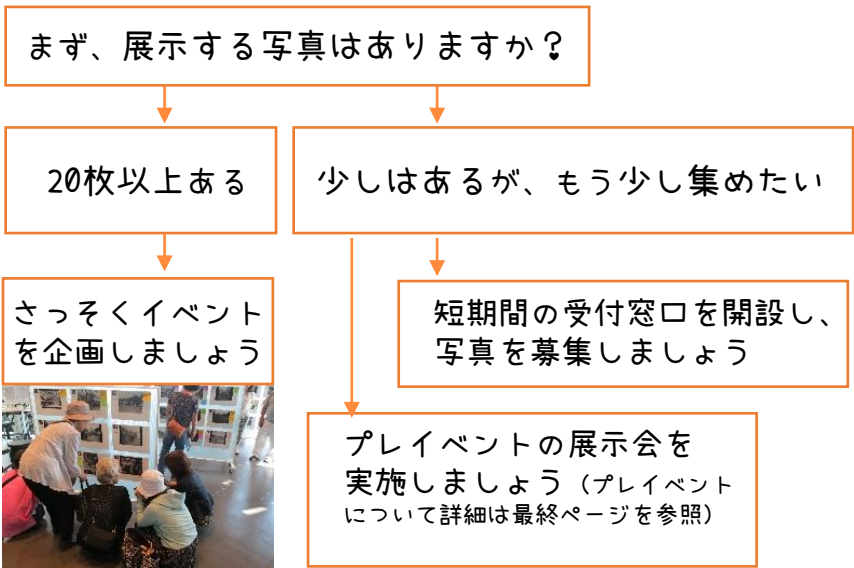
場所が確定した写真をもとに、市民参加型・体験型のイベントの開催もおすすめです。写真資料の作製などにも活用しましょう。



# ①

## 写真を集める

### 展示素材



### 準備物

- 写真 ○付せん紙 ○ペン
- 確定ハンコ  
(あると便利。手づくり消しゴム判でも可)

### 提供物

ロゴデータ、広報文(案)、「どこコレ?」展示パネルフォーマットなどをデータでご提供いたします。展示や広報用チラシなどにご利用ください。(※チラシなどのデザインに関する規定は特に設けておりません)

印刷物(チラシ・ポスター)やウェブサイトなどには以下の表記を入れてください。

「企画協力：NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
せんだいメディアテーク」



「どこコレ?」の準備物一式



「確定ハンコ」があると便利



広報チラシ

## ② 話を聞く・書く

### 展示方法

1. 写真をスキャニング・コピーなどで拡大し、パネルに貼り出します
2. テーブルに付せん紙とペンを用意します。
3. 来場者に写真を見てもらい、知っていることや思い出したことを自由に付せん紙に書いてもらいます。

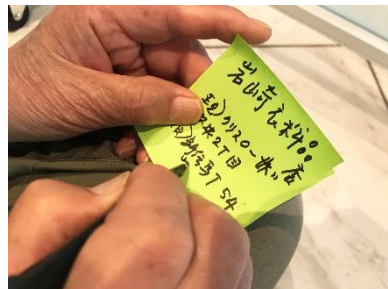
以上です。

#### ワンポイント①

提供された写真は、そのまま展示するのではなく、デジタルデータ化してプリントし、それらを使用するようにすればオリジナルを傷めることがなく安心です。



拡大した写真を貼り出します

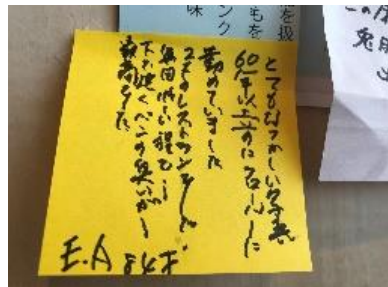


付せん紙とペンを用意し、来場者に自由に書き込んでもらいます

### 聞く・書く

撮影された場所が明確に分かる場合は、付せん紙に書き込んでもらえますが、あやふやで不確定な情報・記憶は来場者は書きにくく、戸惑いが多いようです。

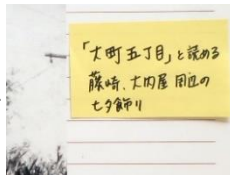
しかし、その不確定情報も当時のことを探る大切なヒントになりますので、積極的に拾い集めましょう。皆さんの記憶を多く集めることで「どこコレ？」の面白さがどんどん広がります。



思い出も大切な情報のひとつ

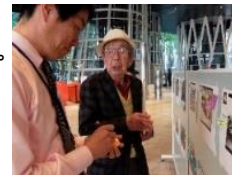
#### ワンポイント②

写真について知っている情報は事前に付せん紙に書いて貼っておくと良いでしょう。付せん紙がついている写真は来場者の目に留まり、さらに情報が集まりやすくなります。



#### ワンポイント③

写真をじっくりご覧になっている方には「ご存じのことがあれば教えてください」など、お声がけしましょう。教えてもらった内容は付せん紙に書いて貼り出しましょう。



### ③ 場所を特定する

#### 確定の仕方

集められた情報や証言などから撮影された場所が特定され、地図が書ける（示せる）状態になれば撮影場所の「確定」となります。

手書き地図など写真パネルと一緒に貼って展示しておく、分かりやすいでしょう。

また、「確定ハンコ」を用意できる場合は、確定情報の提供者に直接パネルに「確定印」を押してもらいましょう。来場者と一緒に達成感を共有することができます。

#### ワンポイント④

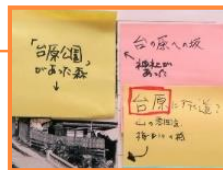
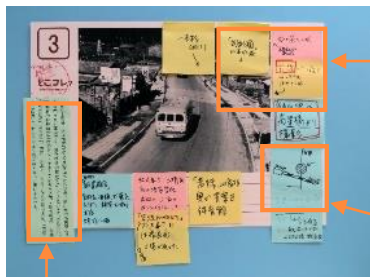
展示写真の見方や「どこコレ？」をたのしむための5つのコツを“五箇条”としてまとめてあります。撮影場所を特定する際の参考にしてください。

「どこコレ？」を愉しむための五箇条

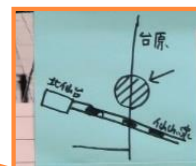
1. 日影で方角を読むべし。
2. 看板やのぼりから位置を特定すべし。
3. 地図と合わせて街並みを見るべし。
4. 勇気を出して付箋に書き込むべし。
5. 先輩の話じっくり聞くべし。

#### 情報編集

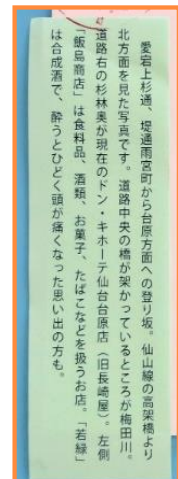
付せん紙に書かれたコメントや地図などをもとに、特定された場所や、裏付け情報などを写真のキャプションとしてまとめます。この時、場所確定の決め手となった情報も一緒にまとめておくと良いでしょう。



確定情報



確定地図



情報をまとめたキャプション



多くの証言を集めましょう



地図が書ける状態になれば「確定」



「確定ハンコ」を押す参加者

## ④ 資料を活用する

確定された写真をもとに、市民参加型・体験型イベントの開催や資料作製などに活用するのもおすすめです。

### 公開サロン

写真が確定に至るまでの経緯や、確定したポイント、『「どこコレ？」を愉しむための五箇条』の具体例などを紹介し共有する「公開サロン」を実施します。

各世代の知識と知恵、経験が集結した「どこコレ？」の楽しみ方を伝えるとともに、かつてのまちの姿や地域ネタを再発見する面白さを伝えます。



参加者と「どこコレ？」の楽しさを共有する公開サロン

### 歩く「どこコレ？」

写された現地を訪れ、もう一度同じアングルで写真を撮ってくる体験型イベントです。撮影された時代との街並みの変化を体験し、残されている痕跡を再発見します。

また、確定された写真の確認や未確定写真のリサーチに活用することもできます。



現地を訪れ写真を撮る、体験型イベントの歩く「どこコレ？」

### 資料集製作

確定された写真は資料集としてまとめ、展示する時に自由に閲覧できるようにしておきましょう。「どこコレ？」の成果品としてだけでなく、集められた写真と記憶が生きた地域資料となり、新たな会話を生み出す資料となります。



確定した写真を一冊にまとめた写真記録集

どこでも、だれでも実施できる「どこコレ？」のつくり方を簡単にご紹介しました。これらをもとに、各地・各会場でアレンジを加えながら、地域の記憶発掘を楽しんでみてください。「どこコレ？」をご一緒に開催できることを楽しみにしております。

## Q&A

### Q 1. 展示できる写真が少ない場合はどうすれば良いでしょう

A. まずはお手持ちの写真をもとに「プレ展示会」の開催をおすすめします。イベントの大小に関わらず、写真展を開催すると写真が集まる傾向が強いです。また、各ご家庭で撮られたスナップ写真が「どこコレ？」で展示したい写真であることや、写真募集をしているというアナウンス効果も生まれます。こじんまりとでも実施してみてください。

「プレ展示会」の開催も難しい場合は、お近くの博物館や資料館などに相談してみるのも良いでしょう。

### Q 2. プレ展示会で写真などを受け入れる時の注意点を教えてください

A. アルバムや写真、フィルムが持ち込まれた際、提供者の氏名・連絡先は必ず記録しておきましょう。他媒体で使用する際や写真の確認の際に必要になります。また、撮影者・被写体の年齢（生年月日）、住んでいたまち、お仕事などの情報を簡単にヒアリングして記録しておく、写真の撮影年代や被写体が特定しやすくなります。

### Q 3. スキャニング後、アルバム・写真・フィルムなどの返却を希望されない方からの受け入れは、どのように対応すれば良いでしょう。

A. これらのアーカイブ素材を研究対象として収集している博物館や資料館、図書館もありますので、お近くの施設に相談してみてください。

### Q 4. 開催にあたっては、権利料等は発生しますか。

A. 権利料は発生しませんので、安心して「どこコレ？」を実施してください。

## お問い合わせ先

■NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
仙台市宮城野区田子1丁目11-2  
TEL 022-387-0656 FAX 022-387-0651  
E-mail npo@20thcas.or.jp  
<http://20thcas.or.jp/>

■せんだいメディアテーク  
仙台市青葉区春日町2-1  
TEL 022-713-4483 FAX 022-713-4482  
E-mail info@smt.city.sendai.jp  
<https://www.smt.jp/>